

令和6年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 6月予報

【 水 稻 】

いもち病（葉いもち）

箱施薬を実施していないほ場では、葉いもち初発生（6月4半旬頃）の7～10日前に粒剤施用を行ってください。なお、一部地域では苗いもちの発生が確認されています。補植用置き苗はいもち病の発生源となるため、すみやかに除去を行ってください。

【 か き 】

カキノヘタムシガ（カキミガ）

成虫の見取り調査では、本年の発蛾最盛期は5月13日頃（平年5月17日）と平年よりやや早く、発生量は樹あたり1.6頭（平年1.9頭）と平年並でした。防除適期は発蛾最盛期から7～14日後の5月下旬と予測されます。被害が多いほ場ではさらに7～10日後に追加防除を実施してください。

【 果 樹 】

果樹カメムシ類 \* 病虫害発生予察注意報第1号（R6.5.21付）発表

岐阜・西濃、中濃及び東濃地域に設置した予察灯、フェロモントラップへの果樹カメムシ類の誘殺数が、4月下旬以降、平年より多く推移しています。特に、温度及び湿度が高く、風のない夜は、活発に活動する傾向があります。今後の気象情報には十分注意し、飛来が認められる場合は直ちに防除を実施してください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期（6月）

|         | 病虫害名<br>(防除適期) | 生育状況<br>発生量                    | 発生時期及び防除適期          |            |                   |          |     |                                                   | 防除上の注意事項                                                 |
|---------|----------------|--------------------------------|---------------------|------------|-------------------|----------|-----|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
|         |                |                                | 1半旬                 | 2半旬        | 3半旬               | 4半旬      | 5半旬 | 6半旬                                               |                                                          |
| 水<br>稲  | 生育(コシヒカリ)      |                                |                     |            |                   |          |     |                                                   | ・田植え 5/10（農業技術センター）                                      |
|         | 生育(ハツシモ)       |                                |                     | < 田 植 え >  |                   |          |     |                                                   | ・田植え 6/10予定（農業技術センター）                                    |
|         | 葉 い も ち        | やや多                            |                     |            |                   | <初発生>    |     |                                                   | ・箱施薬を実施する。                                               |
|         | 縞 葉 枯 病        | 少                              |                     |            |                   | <初発生>    |     |                                                   | ・ <u>縞葉枯病</u> 感受性品種では、縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。       |
|         | ヒメトビウンカ        | 並                              |                     | <第1世代成虫>   |                   |          |     |                                                   |                                                          |
|         | ニカメイガ          | 少                              |                     | <越冬世代成虫>   |                   |          |     |                                                   |                                                          |
| 防 除 適 期 |                | ～ ■葉いもち・ヒメビ・ニカメイガ<br>▲葉いもち・ヒメビ |                     |            |                   |          |     | ・ <u>ヒメトビウンカ</u> 箱施薬を行わなかったほ場では第1世代成虫最盛期に本田防除を行う。 |                                                          |
| か<br>き  | 生育（富有）         | やや早                            |                     |            |                   |          |     |                                                   | ・開花最盛期 5/14（平年 5/17：農業技術センター）                            |
|         | ハマキムシ類         | やや多                            |                     |            |                   | <第1世代成虫> |     |                                                   | ・ <u>ハマキムシ類</u> 幼虫発生初期の防除を徹底する。                          |
|         | カキノヘタムシガ       | 並                              |                     |            |                   |          |     |                                                   | ・ <u>ミバチ</u> の導入時期に注意して防除を徹底する。                          |
|         | フジコナカイガラムシ     | 少                              |                     | <第1世代1齢幼虫> |                   |          |     |                                                   | ・ <u>フジコナカイガラムシ</u> 虫体に薬液が到達するように丁寧に散布を行う。               |
|         | 防 除 適 期        |                                | ▲ <u>フジコナカイガラムシ</u> |            |                   |          |     |                                                   |                                                          |
| な<br>し  | 黒 星 病          | 多                              |                     |            | < 果 実 発 病 最 盛 期 > |          |     |                                                   | ・発病が散見されるほ場では確実に防除を実施し、同一系統薬剤の連用は避ける。                    |
|         | 防 除 適 期        |                                | 黒星病 ▲ ～             |            |                   |          |     |                                                   |                                                          |
| 果<br>樹  | カメムシ類          | 多                              | < 越 冬 世 代 成 虫 >     |            |                   |          |     |                                                   | ・夜温が高い場合、突発的にはほ場へ飛来する恐れがあるので注意する。                        |
|         | 防 除 適 期        |                                |                     |            |                   |          |     |                                                   |                                                          |
| 茶       | 生育(やぶきた：池田)    | 並                              |                     |            | <二番摘採期>           |          |     |                                                   |                                                          |
|         | ハマキムシ類         | 少                              |                     |            | <第1世代成虫>          |          |     |                                                   | ・幼虫発生初期の防除を徹底する。                                         |
|         | チャノホソガ         | やや多                            |                     | <第1世代成虫>   |                   |          |     |                                                   | ・ <u>チャノホソガ</u> 発蛾最盛期と萌芽～開葉期が合致すると被害がでるため、1～2葉期に防除を実施する。 |
|         | 防 除 適 期        |                                | ▲ハマキムシ類<br>▲チャノホソガ  |            |                   |          |     |                                                   |                                                          |
| 野<br>菜  | コ ナ ガ          | やや少                            |                     |            |                   |          |     |                                                   | ・薬剤抵抗性が付きやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。                            |
|         | アブラムシ類         | 並                              |                     |            |                   |          |     |                                                   | ・ <u>アブラムシ類</u> 定植時に粒剤を施用する。                             |
|         | 防 除 適 期        |                                |                     |            |                   |          |     |                                                   |                                                          |

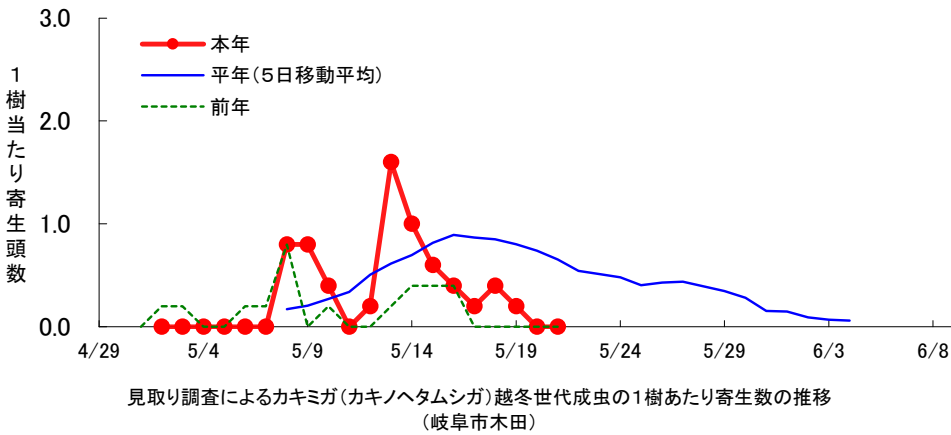
| 病害虫名 |      |       | 発生量 | 発生時期及び防除適期                                         | 防除上の注意事項                                                                                                         |
|------|------|-------|-----|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施設野菜 | トマト  | 灰色かび病 | やや多 | 調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。                | ・発生初期の防除を徹底する。<br>・施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。                                                  |
|      |      | 葉かび病  | やや少 | 調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。                |                                                                                                                  |
|      | キュウリ | べと病   | 多   | 調査ほ場で発病が認められる。梅雨時期となるため、今後の発生に注意する。<br>(発病葉率 2.2%) | ・ <b>葉かび病</b> 薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。<br>・ <b>うどんこ病</b> 過度の乾燥は発生を助長するため、注意する。<br>・使用する薬剤は、RACコードを参照して同一系統の連用を避ける。 |
|      |      | 褐斑病   | 多   | 調査ほ場で発病が認められる。罹病品種では今後の発生に注意する。<br>(発病葉率 0.4%)     |                                                                                                                  |
|      |      | うどんこ病 | 多   | 調査ほ場で発病が認められる。引き続き発生に注意する。<br>(発病葉率 10.2%)         |                                                                                                                  |
|      |      |       |     |                                                    |                                                                                                                  |

注1) ▲、▲～▲：防除適期 ■：箱施薬  
注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域  
注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる  
注4) 施設野菜は岐阜、西濃地域の調査結果

カキノヘタムシガ（カキミガ）

カキノヘタムシガは芽付近に産卵し、孵化した幼虫は芽を食害したのち、ヘタ部や果梗から果実内に食入します。幼虫が果実内部に食入すると薬液が届かないため、食入するまでに防除することが重要です。本年の発蛾最盛期は平年より4日早く、防除適期は5月下旬頃となりましたので、発生が多いほ場では1回目散布から7～10日後に追加防除を実施してください。

なお、5月20日に発表した**病害虫情報第3号（カキノヘタムシガに注意）**も参考としてください。



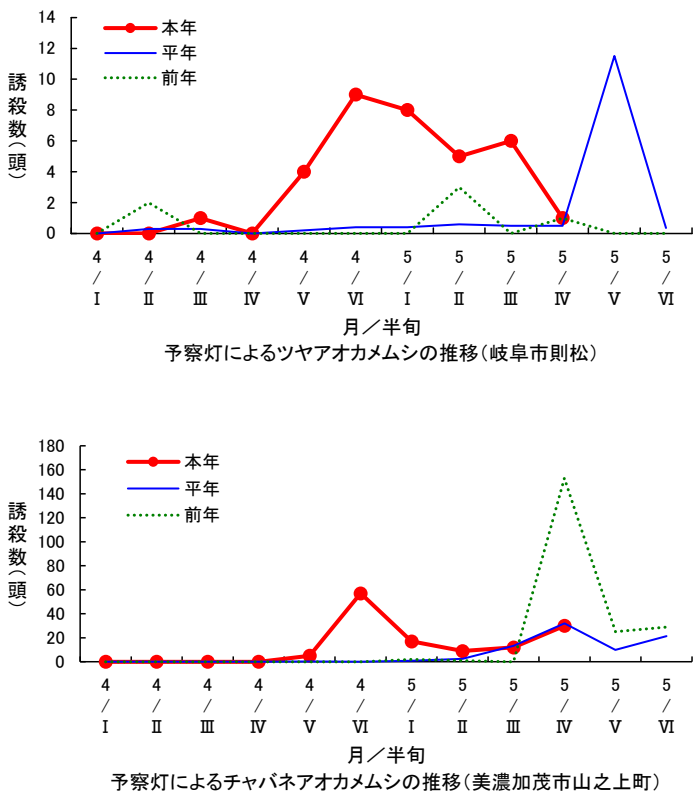
果樹カメムシ類\* 病害虫発生予察注意報第1号（R6.5.21付）発表

岐阜市及び美濃加茂市の予察灯による果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ及びチャバネアオカメムシ）の誘殺数は、それぞれ4月第5半旬、4月第6半旬に急増しました（右図）。

本年の5月中旬におけるサクラ果実の吸汁調査では、岐阜市で吸汁果率76.9%、美濃加茂市で86.6%と果樹園への飛来が目安となる75.0%を超え、同市では成熟落果が進んでいます。サクラ果実が餌として適さなくなっており、果樹園へ飛来して果実を加害する可能性があります。

一部の果樹園ではすでに飛来が確認されており、気温の上昇とともに断続的に発生が見られ、さらに多くなる可能性があります。

薬剤による防除はナシ、モモ等では袋かけ前、カキでは幼果期の時期が目安となります。特に、風が弱く、夜温が高い薄暮時（日没後2時間位）に活動が活発となるため、園内をよく観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。



6月～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報（名古屋地方气象台 5月23日発表）  
向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並と予想されています。期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

